

ロールモデルへと 成長した女性たち

大友 亜弥 (おおとも あや)
農と暮らしの委員会 委員長
堀田 悠希 (ほった ゆき)
農と暮らしの委員会 事務局

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく-北海道」運動第8回コンクールで奨励賞を受賞した「農と暮らしの委員会」委員長の大友亜弥さん、事務局の堀田悠希さんにお話を伺いました。

《女性農業者の地位向上のために》

今年で10年を迎える「農と暮らしの委員会」は、農家の女性が自分のキャリアを生かし、自信を持って農業に向き合える女性農業者を目指して設立されました。当時は女性農業者が何かをしたいという時代ではなかったため、「何をしたいのか」と言われ悔しい思いもしました。しかし、交流会、勉強会、視察やイベントなど幅広い活動を精力的に行った結果、農業を通じて十勝の女性が輝き、農業をより魅力的なものにする取組みとして大きな話題となり、さまざまなメディアで取り上げられるようになりました。

委員会のメンバーは、十勝の女性農業者で構成され、当初は30~40人でしたが、現在は主に18人で活動しています。



道の駅ピア21しほろで開催される「乳フェス」



左から堀田さん、大友さん

《ロールモデルとしての成長》

10年の活動を振り返ってみると、レストラン経営や道の駅の運営、チーズ工房を手掛けるなど、「農家だけ」という働き方もあるんだ、こんなこともできるんだ、こういう人生を過ごしたい」といつの間にか自らが各地域のロールモデルとして成長していました。

《大盛況の乳フェス！》

酪農家を応援するため、1年前に始まったイベント「乳フェス」にもサポートで参加しています。

その名のとおり牛^{おん}さんのお祭りで、メンバーが運営する「道の駅ピア21しほろ」で開催され、ミルクやり体験、紙芝居、模擬分娩^{ぶんべん}など子どもたちに向けて食育ならぬ酪育を行い、毎年大盛況のお祭りとなっています。

《ゆる〜く、なが〜く、いつまでも》

女性は、結婚、出産などのライフスタイルの変化による影響を受けやすく、夢や目標を達成するには時間がかかることもあると思います。彼女たちの夢は、自分たちが住んでいる地域をより豊かにしたい、心を育みたい、女性農業者が安心して農業ができるきっかけとなればと願い、豊かなこの時代から今後、農業がどう転換していくか楽しみだと、真摯に農業と向き合っています。

メンバーは十勝全域に散らばっているため、1年に数回しか会えませんが、おばあちゃんになるまで一緒にいたい。その日のために日々頑張っていると笑顔で話す彼女たちは、今後の十勝農業に影響を与えるべくパワフルで魅力的で、同じ北海道民として誇らしく思いました。

※当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しく-北海道」運動第1~9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。